

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
 ★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
 ★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
 ★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。



News Letter

2023年5月5回号 発行:常総生協広報G



2022-23年度活動テーマ(案)「つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」

映画『牛久』自主上映会 開催しました



4月29日(土曜日)、牛久市のエスカード生涯学習センター・エスカードホールにて、映画『牛久』の自主上映と、この映画を制作したトーマス・アッシュ監督のトークイベントを開催しました。

牛久市にある東日本入国管理センターに収容された難民申請者が、カメラに向けてその実態を語っている映画『牛久』を通して、多くの方に実態を知っていただきたいと、常総生協も実行委員会のメンバーとして、準備・開催に携わってきました。

この牛久入管に収容されていたクルド人男性の国賠訴訟での勝訴、また自主上映会前日には入管難民法改正案が衆院法務委員会で可決されるなど、社会的に関心が寄せられたこともあり、事前鑑賞券のみでほぼ完売。当日券の販売は余儀なく断念するほどの上映会となりました。

※次ページに続く

2023年5月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●	○提携・協同・連帯企画●
○「常総っ子応援団」ゴンタで遊ぼうin流星台プレイパーク 毎週木曜日に外遊び活動をしています。 ・5/20(土)めぐみちゃん実験田の田植え ・5/21(日)竹村さんいちご交流会 ・5/27(土)藤井養蜂はちみつ交流会@生協本部 ・5/31(水)定例理事会	・5/19(金)～20(土) NW21組織担当者会議 ・5/21(日)東海第二原発差止訴訟団 原告団総会@水戸

上映後のアンケートでは、“言葉が出ないほどの驚きとショックを受けた”こと、“実態を知り、広めて行きたい”、“自分が何ができるかを考えたい”などが伺えました。

また、トーマス・アッシュ監督トークイベントでは、難民懇事務局 石川大我参議院議員、前述のクルド人のデニスさん、ナイジェリア人のエリザベスさんが登場しました。

トーマス監督は、入管での面会で、このままでは誰かが死んでしまう、その目撃者として、何かしなければという使命感で映画を作ったこと、映画を見て終わりではなく、私たちに何ができるのか？映画を見て始まりにしたいと話されました。石川議員からは入管法政府案に対して、難民保護法の議員立法の用意があり、国際水準を満たした第3者委員会の設立、収容期間・収容に関しての司法審査をするなどの野党案の内容、審議できるよう働きかけている旨の報告と共に、二年前の入管改正案が取り下げられた時のように、世論の声が大事だと話されました。また、県境が越えられないため、オンライン参加となったデニスさんからは、先の勝訴は皆さんのおかげ、この映画を見てくれたことへの感謝の意と、入管収容は国際法違反だとして裁判を起こしていること、日本の政府や法律がこの状況を作っていると述べられました。

2回の収容を経験したナイジェリア人のエリザベスさんは、聖書「出エジプト記」にエジプト文明が外国人を排斥したことにより衰退したことを例に、難民を受け入れ支援が続くこと、日本政府は何もしてくれないが、日本人一人一人が日本で生活したいという難民を支援してくれることを心から願っていると話されました。

上映途中で、字幕が見えにくいとのご指摘をいただき、映画を中断して席を移動して頂くなど、来場者の皆様にご不便をおかけしたものの、牛久入管のある「牛久」という地での上映会が無事に開催できたことは大きな意義があったと思います。これからも、「私たちに何ができるのか？」を心に、入管問題に携わっていきたいと考えています。



■組合員さんから、後日、感想が届きました

映画「牛久」を観ました。観なければ永遠に知ることがない実態の一部を観ることが出来ました。観ただけではダメなんですよね。入管法改正反対のFAXを送ることにします。関係者の皆様ありがとうございます。（取手市Sさん）

国会議員へ電話かFAXを！

参議院審議入りは5/12（金）です。入管法の「改悪」に向かっていく参議院法務委員会の自民・公明党を中心にご連絡を！

【最優先連絡先】（敬称略）

◎参議院法務委員会所属議員

委員長 杉 久武（公明） 電話：03-6550-0615 FAX：03-6551-0615

理事 加田 裕之（自民） 電話：03-6550-0819 FAX：03-6551-0819

理事 福岡 資麿（自民） 電話：03-6550-0919 FAX：03-6551-0919

理事 川合 孝典（国民民主） 電話：03-6550-1223 FAX：03-6551-1223

※電話の方が効果があるとの情報あり

※既に対案を提出する予定の

野党議員、「与党案」反対派議員はリストから外しています

次のページに

FAXの3つの文案を参考までに

貼り付けますので、いずれかを切り取ってご利用ください。

※冒頭の（例○）は消してください

（理事長 増本・職員 稲垣）

谷合 正明

佐々木 さやか

古庄 玄知

山東 昭子

世耕 弘成

田中 昌史

森 まさこ

山崎 正昭

和田 政宗

梅村 みずほ

鈴木 宗男

尾辻 秀久

（公明） 電話：03-6550-0922 FAX：03-6551-0922

（公明） 電話：03-6550-0514 FAX：03-6551-0514

（自民） 電話：03-6550-0907 FAX：03-6551-0907

（自民） 電話：03-6550-0310 FAX：03-6551-0310

（自民） 電話：03-6550-1017 FAX：03-6551-1017

メール：info@newseko.gr.jp

（自民） 電話：03-6550-0505

問い合わせ：https://tanaka-masashi.com/?page_id=56

（自民） 電話：03-6550-0924 FAX：03-6551-0924

（自民） 電話：03-6550-1201 FAX：03-6551-1201

（自民） 電話：03-6550-1220 FAX：03-6551-1220

（維新） 電話：03-6550-1004 FAX：03-6551-1004

（維新） 電話：03-6550-1219 FAX：03-6551-1219

（無所属） 電話：03-6550-0515 FAX：03-3595-1127

(例1) _____様

2021年「入管法改定案」を再提出しないでください

2021年通常国会に提出され、市民社会の反対の声をを受けて廃案となった出入国管理及び難民認定法の改定案（以下「政府案」）は、退去強制拒否罪や、監理措置制度、難民申請者の送還の推進、在留特別許可の対象の限定化など、入管の権限をさらに強化し、移民・難民の排除を進めるものでした。日本で生まれ育った人や、難民としての保護を求める人を、在留資格がないからといって収容・送還することは、共生社会の理念に反します。政府案の再提出ではなく、移民・難民と共に生きるための、入管体制や難民認定制度の抜本的な改善を行ってください。

2023年____月____日

氏名_____

-----キリトリ-----

(例2) _____様

移民・難民の排除につながる「入管法改定案」を国会に提出しないでください

2021年通常国会に政府が提出した出入国管理及び難民認定法の改定案は、外国人への締め付けを強化し、難民申請者の送還を可能にするものでした。政治家の皆さんには、国籍や在留資格に関係なく、様々な背景を持つ人が一緒に暮らせる社会を作ってほしいと思います。2021年の政府案に対して、10万筆以上の反対署名が集まっています（Change.org「入管法を改悪しないでください！ “Open the Gate for All” —移民・難民の排除ではなく共生を」）。私も署名をした1人です。また、2021年の法案審議中は、国会前でのシットインによる抗議活動も行われました。多くの市民の反対の声が集まった法案を再度提出することに反対します。

2023年____月____日

氏名_____

-----キリトリ-----

(例3) _____様

難民申請者の「送還」ではなく、難民の積極的な受け入れを！

2021年の通常国会に政府が提出した法案は、難民申請中の外国人の送還を可能とするものでしたが、あまりにも非人道的との市民の声により、廃案になりました。2022年にはウクライナ戦争の影響もあり、国内外に逃れる難民・避難民の数が1億人を超えました。このような世界の動きの中、日本政府が、ウクライナ避難民の受け入れと支援に踏み切ったことを歓迎します。一方で、日本に庇護を求めてくるのは、ウクライナの人だけではありません。世界の様々な地域から日本に庇護を求める難民申請者を「送還」するのではなく、受け入れる日本社会と法制度の整備を強く望みます。

2023年____月____日

氏名_____

【宇治田さんの平飼い卵 / 「やさとの仲間」の平飼い卵】 値上げについてのお願いです

長年にわたって、常総生協に美味しく良質な卵を届ける宇治田さん、「やさとの仲間」杉山さん・天池さん家族。

3家族共に、自家農園で育てる野菜や地域や国内の産物を中心に鶏の飼料をまかない、そこから出る鶏糞はたい肥化して畑に還元させる「有畜複合型の有機農業」を長年続けています。

地場の資材で賄うのが基本ですが、昨今の世界的な穀物価格の高騰、そこから「玉突き」的に引き起こされている国産素材の需給ひっ迫による値上げを受け、6月1回から卵の値上げをせざるを得なくなりました。

今回は、生産者から飼料をめぐる状況についてお伝えいただきます。

■やさとの仲間（たまご部・杉山さん・天池さん/茨城県石岡市）

いつもお世話になっております。

『やさとの仲間』の卵はこれまで、地元産規格外小麦や米ぬかなど未利用資源を活用しているため、輸入飼料の高騰の影響をあまり受けずに来ました。また、極小規模家族経営であるため、労賃や設備経費をかなり切り詰めることが可能でした。



杉山さん夫妻

天池さん夫妻

しかし、ここにきて鶏の健康維持、産卵の安定に不可欠な魚粉の高騰（約5割高）、さらに規格外の国産小麦もいろいろなあおりを受け始め（昨年時で5割高、今年は更に上がる可能性も）、経営上無視できなくなってきました。

そこで大変心苦しいのですが、卵代の値上げをお願いする次第です。
ご理解の程、よろしくお願いします。

■宇治田さん（茨城県石岡市）

いつもお世話になっております。宇治田農場の大原です。

さて、雛・餌・パック・ガソリン・電気...etc.と生産に関わるもの全ての値上げが重なり、なんとか値上げをせずにいきたいと踏ん張ってきましたが、限界になりました。



宇治田さん夫妻

つきましては6月第1週より値上げをお願いしたく、よろしくお願い致します。
季節の変わり目ですが、皆様のご健康をお祈りしております。
今後共よろしくお願い致します。